

2024. 4. 25 チューリップから遊びが広がる

4月初旬、年中の時に植えたチューリップが色とりどりに咲き始めました。

子供たちの中には、朝からチューリップに水やりをしながら観察をしている子もいたのですが、ある女の子A子が、「せんせい、この赤いチューリップは『とやまレッド』っていうやよ！」と言ってきます。教師は「へーそうなんだ！よく知っているね」と答えると、「この黄色のは、はちみつミルク！」とさらに話してきます。そして、「ピンクはね…」とさらに続いていきました。教師はその話を興味深く聞いていました。幼稚園に咲いてるチューリップの正式な名前は正直教師にもよくわからないのですが、A子のお家にもチューリップが咲いていて、また富山の砺波チューリップフェアにもよく行かれていようで、A子もチューリップが好きなのがよくわかります。

次の日、朝いつものようにチューリップを観察していると、違う女の子が「チューリップの真ん中になんかあるよ！」とつぶやきます。一緒にみていた他の子も「なんか黒いのが周りにあるね」と中をしげしげと見ます。教師も「それはなんなんかな？」と一緒に考えているとA子が「それはめしべとおしべだよ！」と言いに来ます。朝の会の時、教師は子供たちにこのチューリップの話をしました。「実は先生、チューリップにはいろんな名前があることを知ってさ…」と、A子から聞いたチューリップの名前も取り上げながら、写真でいろいろなチューリップの品種についても紹介をしました。「ミッキーマウスっていうチューリップもあるんだね！面白い名前だね！」「これはアラジン！」「メリークリスマスっていうのもあるよ！」「えー！！」子供たちは興味津々に聞いています。

そこで教師は、「それとさ、実はチューリップの中に何んか出っ張ってるのがあったんだよね！」と伝えます。すると「それはめしべだよ！」と男の子。教師は「めしべってなんだろうね？」とみんなに問います。すると、他の男の子が「そこにミツバチがやってきて花粉をつけるんだよ！」と言います。その他にも、「その中で結婚するんだよ！」「よくわかんないなー」などいろいろな意見がでました。

その後の好きな遊びの時、A子はチューリップ図鑑を作り始めます。そこに、教師が印刷したチューリップの写真も貼り始めました。それをみんなの時間で紹介をします。その次の日も、朝から図鑑づくりをするA子。そして、図鑑が出来上がると、色水広場へいき、チューリップを観察します。

A子は「せんせい、この白いのチューリップは図鑑に載ってないわ！」と言います。

「これはなんていうんだろう？」また新たな問いも生まれてきました。

教師は、保育室に図鑑を作ることができる環境と、チューリップの写真をいろいろのせたもの、そしてチューリップの折り紙でおったものなどをいろいろ置いておきました。A子がチューリップ図鑑を作っている横で、B子もチューリップ図鑑を作り始めます。B子は折り紙で折ったものを貼り、イラストチューリップも切り取って貼り付けていました。

昼遊び、A子はピアノを弾いて遊んでいます。そこに教師は「こんな曲もあるよ！」とチューリップの歌を弾いてみます。するとA子は教師の手を見ながら、真似をして弾き始めた。でもわからなかったので「先生、どうやって弾くか書いて！」と言ってきました。教師は、ドレミで書いてA子に渡すと、それを見てチューリップの曲の練習が始まります。それを家に持ち帰り、家でも練習し、弾いて聞かせてくれました。

ちょっとした出会いときっかけから、A子の思いは膨らみ、また周囲を巻き込みながら、その面白さを共有していきます。チューリップの花が好きだからこそ、図鑑や音、言葉として自分なりに表現したいのでしょう。チ

ユースリップが咲いているのは2～3週間ほどです。でもこの短い期間の中でのストーリーが次への遊びのストーリーへとつながっていくのかもしれない。子供たちにとっての一瞬一瞬を大切にしていこうと改めて感じた4月でした。

